



# 医療連携室だより

公立置賜総合病院医療連携室 ☎0238-46-5000 内線 1902, 1409

## 新年にあたり 医療連携部長 山田 昌弘

### 特集:

新年にあたり

医長連携部長  
山田昌弘 ……1

地域医療連携推進  
に係る意見交換会  
報告 ……2

第2回公開講座に  
ついて ……3

紹介・逆紹介につ  
いて ……4

退院支援状況報  
告 ……4

新年明けましておめでと  
うございます。今年も医療連  
携室をよろしく願いました  
ます。

さて昨年末によやく国の  
「地域医療再生計画」が承  
認されました。政権交代が  
あり、執行が危ぶまれた予  
算ですが、山形県はほぼ申  
請通りに承認されました。こ  
の計画は、県内2カ所の二  
次医療圏(置賜と庄内+最  
上)で、地域医療再生のた  
めに5年間で約25億を使  
って整備するものです。置  
賜地域での主な事業は、  
(1)医師確保事業:置賜の



みならず県全体で考えてい  
くことになります。置賜には  
総合研修センターを建て、  
宿泊して種々の研修がで  
きるよう計画しています。(2)  
医療情報連携事業:・三病  
院相互参照システム;置賜  
総合病院、米沢市立病院、

三友堂病院の電子カルテが  
相互に見られるシステムを  
構築します。・診療検査予約  
システム;診療所から外来、  
検査の予約をインターネット  
を使ってできるようにしま  
す。

(3)周産期医療関係事業:  
遠隔地妊婦健診を支援する  
事業を考えております。これ  
らの事業を5年かけて完成  
し、その後維持していく計  
画ですが、早速今月末に医  
療情報連携ワーキンググル  
ープの第1回目の会合が開  
催される予定です。✓

## — 今こそ face-to-face ! —

いよいよ置賜全域での医  
療情報のネットワーク化が  
始まるわけですが、IT ネット  
ワークの基本は何といつても  
"face-to-face (顔の見える)"  
つき合いです。いかに  
優れたシステムでも使う人  
がいなければ「画餅に帰す」  
ことになります。使う人を増  
やすには、ITの勉強ばかり  
でなく、お互いのコミュニケ  
ーションがどれだけ完成さ  
れているかが重要なポイント  
となります。電話でお互いの  
顔を思い浮かべながら話  
ができるような関係であれば、  
ITネットワークの浸透  
は早いと考えます。ITは所  
詮ツールの一つに過ぎませ

んが、地域連携のために非  
常に便利なツールであるこ  
とは間違いありません。より  
緊密な地域医療連携構築  
のため、今こそ広域での  
"face-to-face"を進めるべき  
と思います。

その考えに基づいて、医  
療連携室では「地域医療連  
携推進協議会」を計画中で  
す。すでに3医師会の会長  
様の同意を得ており、近く開  
催を予定しております。置賜  
におけるさまざまな医療連  
携に関する問題を看護師等  
も含めた多職種間で協議  
し、解決していこうと考  
えております。また、このよ  
うな地域医療連携を行政や市

民の皆さんにも理解してい  
ただく事は非常に重要と考  
えており、市民公開講座「置  
賜の明日の医療を考える」  
を企画しております。その第  
2回目を別記の通り、1月  
23日に長井市で開催しま  
す。今回のテーマは「住民  
参加による新しい地域医  
療」です。皆様の参加をお  
待ちしております。

今年は地域医療再生計画  
の開始と共に、地域医療連  
携の輪を置賜全域に広げ、  
ITをツールとして活用して  
行く地域医療躍進の年にし  
たいと考えておりますので、  
ご協力をよろしくお願いいたします。

## 地域医療連携推進に係る意見交換会 報告



公立置賜総合病院(初冬)

去る平成21年11月25日(水)午後7時から公立置賜総合病院大研修室で開催しました。急なご案内にも関わらず、置賜地域の各医師会長はじめ、開業医の先生方にご出席をいただき、新澤院長、山田医療連携部長はじめ病院側医師とスタッフも出席し、有意義な意見交換会となりました。

### ◆インフルエンザ対策について

新澤院長より、軽度の患者さんについては、開業医の先生方へ案内させていただくことの説明があり、出席いただいた皆様よりご了解を得ました。

### ◆退院支援状況について

担当の医療連携室の飯澤より経過報告と現状につ

いて説明をいたしました。

患者さんの年齢別では、男女とも80歳代の方が一番多く(男12%、女20%)、支援が必要な理由として一番多いのは、介護を受けられる状況にない方であること、退院先としては自宅が一番多い状況であることの説明がありました。また、24時間体制の訪問看護ステーションの充実を進め、在宅医療を支える必要がある事の意見が出されました。

## 逆紹介キャンペーンの実施

### ◆紹介・逆紹介の推進について

山田医療連携部長より、地域医療支援病院を目的に紹介率・逆紹介率を高める手立てとして、患者さんに紹介状をお願いする仕組みの検討と逆紹介のキャンペーンを実施することの確認がなされました。

### ◆県内がん地域連携パスの動きについて

山田医療連携部長よりがん地域連携クリティカルパスは、かかりつけ医と総合病院医師が一緒になって連携パスを作成することが要件であることの確認がなされました。

### ◆緩和ケア勉強会について

橋本先生より週1回緩和ケアカンファレンスを実施していることと、来年度からはオープン化して行きたいので都合の良い曜日や時間帯等の情報提供の依頼がありました。



リハビリ公園(初冬)

### ◆(仮)医療連携推進協議会について

院長より、(仮称)医療連携推進協議会の設立に向けた説明がなされ、出席者により確認がなされました。

さらに院長より、ITを利用した連携、医師会の垣根を超えた、医師会主導によるアウトカムを意識した組織とし、機能分担、IT ネット、がん連携パス、緩和医療等の検討を行っていききたい旨の

説明がなされました。

山田医療連携部長より、開業医の先生方と共同で協議会を作り、年1回は開催したいとの発言がありました。また、院長からは、当面ワーキンググループのような組織を立ち上げ、規約の検討、勉強会の開催、連携パスの進め方等の検討を行いたい旨の意見が出されまし

た。なお、多職種の参画による組織の立ち上げに係る意見も出されました。

本日の意見を参考としながら、医師会と連携調整を行い、推進協議会の設立に向け進めて参ります。

関係機関、関係者の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

## 第2回公開講座

## 「置賜の明日の医療を考える」

—住民参加による新しい地域医療連携の取り組み—

全国的に、地域医療崩壊が叫ばれつつある昨今、先進的な取り組みを積極的に行い医療崩壊を食い止めあるいは再生している先進事例から学び、置賜における地域医療のあり方、住民参加による医療連携のあり方を検討し、地域実情に沿った適切な医療環境の整備と継続的な医療の確保を模索します。

期 日：平成22年1月23日(土) 午後2時～午後4時30分

会 場：タスパークホテル 長井市館町北6-27

入場無料

日 程：開 会 午後2時～

基調講演 午後2時10分～

「医師不足時代のITを活用した  
新たな地域医療連携の取り組み」

千葉県立東金病院 院長 平井愛山氏

座談会 午後3時15分～午後4時30分まで

パネリスト	千葉県立東金病院	院 長	平井愛山氏
パネリスト	長井市西置賜郡医師会	会 長	池田英之氏
パネリスト	山形県置賜保健所	所 長	山田敬子氏
パネリスト	置賜広域病院組合管理者	飯豊町長	後藤幸平
パネリスト	公立置賜総合病院	院 長	新澤陽英
総合司会	公立置賜総合病院	医療連携部長	山田昌弘

## 【講師紹介】

## ●平井愛山氏

平成10年(1998年)より千葉県立東金病院院長。医学博士。日本内分泌学会内分泌代謝科専門医。船橋済生会病院。千葉大学医学部第二内科医局長を経て、現職。「健康ちば21」策定専門委員会委員長。内閣官房「高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部」IT新改革戦略評価専門調査会医療評価委員会委員などを歴任。電子カルテと地域医療連携ネットワークである「わかしおネットワーク」を立ち上げ、2005年度の日本経済新聞賞受賞。

## ●わかしおネットワークのこと

県立東金病院と診療所(15か所)及び調剤薬局(16か所)が電子カルテネットワークによって結ばれ、各診療所では、東金病院で実施した各種検査の画像や検査結果・投薬内容を、また東金病院では診療所の情報を見ることができるようになり、連携が大幅に向上しました。また、電子カルテの操作はシンプルにし、操作マニュアル類を必要としない、使い勝手を重視したものとなっています。

## ●平井先生にとっての地域医療連携の本質は

「信頼感に裏打ちされたヒューマンネットワークにより、地域全体の医療の質を向上させることによって、患者中心の医療を実現することに尽きると考えます。」

「医療連携は診療所医師・薬剤師のレベル向上と密接に関わっています。」

## ●平井先生の発想の原点

- ①地域医療連携の推進
- ②診療所医師の研修支援

公開講座 第2回  
置賜の明日の医療を考える  
医師不足  
コンビニ受診  
モニターペイシエント  
出席者  
参加無料  
住民参加による新しい地域医療連携の取り組み  
全国的に地域医療崩壊が叫ばれつつある昨今、先進事例から学び、置賜における地域医療のあり方、住民参加による医療連携のあり方を検討し、地域実情に沿った適切な医療環境の整備と継続的な医療の確保を模索します。

2010年 1月23日(土) 午後2:00 ▶▶ 午後4:30  
タスパークホテル  
長井市館町北6-27 TEL. 0238-38-1833

基調講演 午後2時10分～  
「医師不足時代のITを活用した新たな地域医療連携の取り組み」  
千葉県立東金病院 院長 平井愛山氏

座談会 午後3時15分～午後4時30分まで  
パネリスト 千葉県立東金病院 院長 平井愛山氏  
パネリスト 長井市西置賜郡医師会 会長 池田英之氏  
パネリスト 山形県置賜保健所 所長 山田敬子氏  
パネリスト 置賜広域病院組合管理者 飯豊町長 後藤幸平  
パネリスト 公立置賜総合病院 院長 新澤陽英  
総合司会 公立置賜総合病院 医療連携部長 山田昌弘

共催：山形県、長井市、南陽市、川西町、飯島町、置賜広域病院組合  
後援：長井市西置賜郡医師会、南陽市東置賜郡医師会、米沢市医師会、高島町、小室町、白鷹町、米沢市



地域医療を守れー  
「わかしおネットワーク」からの提案  
著者：平井愛山、  
秋山美紀  
発行所 岩波書店：”



公立置賜総合病院

〒992-0601

山形県東置賜郡川西町  
大字西大塚 2000 番地

TEL:

0238-46-5000

FAX:

病院理念  
心かよう信頼と安心の病院

置賜広域病院組合

公立置賜総合病院

[www.okitama-hp.or.jp](http://www.okitama-hp.or.jp)

DIPEX Japan

「乳がん体験者の語り」

ウェブページ公開

NPO 法人「健康と病の語り  
ディベックス・ジャパン」が  
運営するウェブサイト「健康  
と病の語りデータベース」  
の中に収録されています。  
是非ごらんになってくださ  
い。

[www.dipex-j.org](http://www.dipex-j.org)

## 紹介・逆紹介について（12月現在）

本年度の紹介状況と逆紹介  
状況等の報告をします。

月平均の紹介件数は、前年  
度が895件に対して、本年  
度は（12月現在）940件で  
す。医療機関及びサテライト  
病院からの紹介件数が着

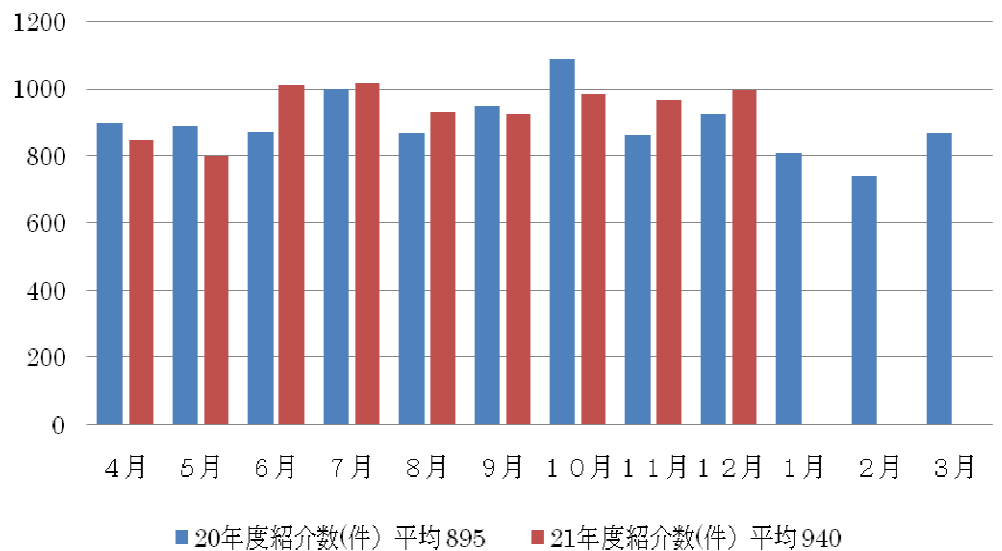
実に増加していることがうか  
がえます。

逆紹介状況については、月  
平均の逆紹介件数が、前年  
度が533件に対して、本年  
度は（12月現在値）639件  
と大幅な増加となっております。

す。DPC（診断群分類包括評  
価）の導入や院内での逆紹  
介推進の方針に沿った結果  
であると思います。

地域医療関係について、今  
後ともご理解とご協力をいた  
だきますようよろしく  
お願い申し上げます。

### 紹介件数 比較



### 逆紹介件数 比較

